



私たちが歩く横を、さっさと自転車が駆け抜ける。5台や10台でなく、30台や50台の大集団である。

あちらこちらに点在する屋台では、朝食の揚げパンをかじりながら新聞に目を落とす人たちを見かける。

中国の人たちは、家で朝食を食べない。女性は

ほぼ100%働いており、専業主婦はほとんどいないことがその理由だ。腕を組みながら男性と議論する女性が多い。話し合つ言葉には力がこもっており、普通の会話でもけんかしているのではないかと感じる。

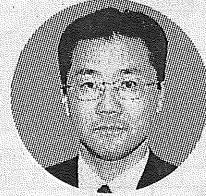
これらは、「中国」の町で見かけた風景である。「中国」の文字を目にする機会が多くなった。WTO加盟、Made in Chinaの衣類をはじめとする製品、北京オリンピックの開催、教科書問題など、新聞だけでなく、日常生活でも

## 中国環境共生事情① (全15回)

### 「中国に学ぶ」

ハタコンサルタント代表

降簾 達生



「中国」に接する機会が増えている。しかし私たちは、隣国である中国について、どれほど知っているであろうか。

「良きに学ぶ」という観点から、(社)日本技術士会中部建設部会では毎年「環境共生ツアー」と称し、NPOの立場で世界各地を訪問している。

このたび、西安建築科技大学との技術交流をきっかけに、武漢、宜昌、北京を訪問した。そこで最も強く感じたのは、数多くの建設物にこめられた歴史の重みである。

日本では、歴史を捨て去りながらインフラ整備を進めてきた。これに対して中国では、歴史の重みをしっかりと認識して、その歴史になぞらえて、さらなるインフラ整備を進めている。

取材した中国の環境共生事情を、15回シリーズで紹介しよう。隣国中国において、私たちの味わった味やにおいや感触をお伝えしたい。

まず次回から、揚子江に構築されている歴史的な大事業「三峡ダム」についてお伝えする。

(つづく)